

平成28年度埼玉高速鉄道(株)経営懇話会の概要

- 1 日 時 平成29年2月20日(月) 15:00~16:45
- 2 場 所 埼玉教育会館104会議室
- 3 概 要 (○質疑:委員 ■回答:県・川口市・さいたま市・SR)

【議事1】埼玉高速鉄道(株)の経営状況について

会社から平成27年度決算、平成28年度上半期の経営状況を説明した。

- 平成27年決算の法人税等調整額に△約5億円が計上されているのは何か。
- 平成27年決算で黒字になったことに伴い、税効果会計のルールに基づき計上したものである。
- 利益を上げる一方で経費を抑えており大変よくやっている。ただし、経費を抑えるのはよいが、災害や事故等に備えた対策はしっかりと講じていただきたい。
- 鉄道事故は大きな被害になることが多い。当社でも浸水被害を受けた場合、多額の費用が必要になるため内部留保をしっかりと蓄積していく。
- 平成27年度決算の最終利益は事業再生計画を大きく上回っているが、中期経営計画も含めて今後どのように経営に取り組んでいくのか。
- 事業再生計画の需要予測は専門機関に委託して行った信ぴょう性の高いものである。今は経営が好調であっても少子化の波が押し寄せてきているので慎重に対応していきたい。
- キャッシュフローの状況はどうか。
- 現金及び現金同等物の27年度末残高は約11億円のプラスとなっている。
- SR東京メトロパスの販売実績が倍増している背景は何か。
- 大きな要因は東京メトロの1日乗車券が100円値下がりしたことである。また、駅ポスター等で積極的なPRを行ったことも販売数の増加に影響している。

【議事2】需要拡大に向けた方策について

県、川口市、さいたま市から沿線の開発状況、会社の経営安定化に向けた取組を説明した。

- 区画整理も進捗し駅型保育も整備されてきた。保育園は地域に関係なく駅にあった方が利用者にとって便利なので、市でも積極的に支援していただきたい。
- ②浦和東部第二地区の使用収益開始率は78%まで進んでいるが、計画人口1万8,300人に対する人口定着率は26%である。今後、計画人口に近づいていくものなのか。
- 美園ウイングシティ全体の定住人口は現在7,500人で、すでに平成28年度の目標を上回っており、今後も順調に人口定着が進んでいくものと考えられる。
- 沿線ゾーンの人口は駅の両側3kmの範囲で集計しているのか。また、草加市や越谷市など利用に関係しそうな市も含まれているのか。
- 町丁字別の人口で集計している。草加市と越谷市は含まれない。
- 駅勢圏の範囲であるが、東京圏の他路線と重なる地域では2kmである。3kmでは他路線に流れてしまう地域も生じるので大まかな指標として考えた方がよい。
- 東京圏は人口密集地であるとともに武蔵野線の外側は野菜の宝庫である。東京から比較的近い鳩ヶ谷あたりの駅で試験的に朝マルシェを開催するのもよい。
- 現在、浦和美園で毎月最終金曜日の夕方に「みそのいち」を開催しているが、鳩ヶ谷でも検討したい。
- 鉄道でも高速道路とのアクセスを活用した取組をもっと打ち出してもよい。
- SRの駅は高速ICから近い。浦和美園駅から東北地方までの長距離バスも運行しているが利用状況は低いようなのでPRしていきたい。
- 今後、オリンピックに対応するための設備投資が増えると経営が厳しくなることも予想される。事業再生計画で想定していない大きな投資はあるのか。
- 埼玉スタへの来場者については、すでに日本代表戦の際にも対応できており、オリンピックでも十分対応できる。臨時ホームのホームドア設置については、今後関係個所と協議していく。また、8両化対応についてはオリンピック後の課題として対応していく。

(以上)